

JACDS ダイレクトニュース

発行: 日本チェーンドラッグストア協会 広報担当

今、イブプロフェンは販売してはいけないのか？

ドラッグストア店舗から「イブプロフェンなどの非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)は売ってはいけないのか？」という切実な問合せが来ています。テレビでの「アセトアミノフェンを薦めるべき」とのコメントが影響しているためです。この件に関し、再確認のため厚生労働省の4月16日現在のホームページからの内容を紹介します。

Q:イブプロフェンで新型コロナウイルス感染の症状が悪化するという話を聞きましたが、どのように考えればよいでしょうか。

A:新型コロナウイルスに感染した時にイブプロフェンの服用により新型コロナウイルス感染症が悪化することを示す科学的な根拠は得られていません。厚生労働省では引き続き新しい情報を収集・分析し今後も情報提供に努めます。

(参考)

1. 欧州医薬品庁(EMA)の主な見解(2020年3月18日)

現在のところ、イブプロフェンが新型コロナウイルス感染の症状を悪化させる科学的な根拠はなく、治療に際して、患者や保健専門家はアセトアミノフェン、イブプロフェンのような非ステロイド性抗炎症薬を含め、すべての可能な治療オプションを検討すべきである。

2. アメリカ食品医薬品局(FDA)の主な見解(2020年3月19日)

現在のところ、イブプロフェンが新型コロナウイルスの症状を悪化させる科学的な根拠はありません。イブプロフェンの服用が心配な場合や慢性疾患の治療に使用している場合は、保健専門家に相談してください。

3. WHOの主な見解

(1) 記者会見の質疑応答(2020年3月17日)

専門家は新型コロナウイルス感染症の感染者に対するイブプロフェンの有害な作用の可能性について調査をしているところであり、当面の間はアセトアミノフェンを代用することを推奨する。

(2) 公式ツイッター(2020年3月18日)

現在得られている情報に基づけば、イブプロフェンを使用しないことを推奨するわけではない。

この話はフランスのヴェラン保健大臣が3月14日、自身のツイッターに、「新型コロナにイブプロフェンは感染悪化の要因になるおそれがある。アセトアミノフェンを服用してください」とする旨を発信したことに端を発しています。これを受けて日本のテレビでも度々、市販の解熱鎮痛剤の服用について専門家のコメントが紹介されています。専門家の意見もマチマチですが、現在のところは日本でもWHOでも、その確証はないというのが現状です。今後も厚労省と連動しながら、情報収集を行い、情報発信します。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00004.html

(文責:横田)

日本チェーンドラッグストア協会 事務局

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-5-10 楓第2ビル4階
TEL. 045-474-1311 FAX. 045-474-2569